

平成29年度 常磐大学教員免許状更新講習【必修・選択必修領域】講座一覧

■第一日（必修領域）：2017年11月18日（土）

コース名称：教育の最新事情

コース概要：必修領域に示された事項を全て含む講習内容です。①世界の教育の動向、②子ども観・教育観の省察、③子どもの発達に関する知見、④特別支援教育、⑤学級づくりと担任の役割をテーマに、専門分野の教員がそれぞれの講習内容を担当します。受講者が現在の教職に求められている専門的な知識を学び、職責の重要性を再認識することが期待されます（6時間）。

時間割：

時間	内容（表題）	講義概要	担当者
1	カウンセリングマインドの必要性および特別支援教育に関する新たな課題：LD、ADHD、高機能自閉症等の理解と指導法	子どもの発達に関する最新の知見の理解に基づき、カウンセリングマインドの必要性の点から子どもの理解と支援のあり方を考える。 子どもの発達に関する、脳科学、心理学の最新の知見の学習に続いて、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、高機能自閉症等の発達障害のある子どもや特別なニーズを持つ子どもの行動特徴を理解し、通常の学級における支援方法について学ぶ。	島田茂樹
2	教職についての省察～専門職たる教員の役割～	各自の教職生活を振り返り、教員としての子ども観、教育観等について省察する。 この講義では、特に次の点を目標とする。 (1) 教員に国民が何を期待しているかを理解する。 (2) 各自の現状を自ら分析し、自らが向かう方向を明確に意識し、説明できるようにする。	稲葉節生 大高 皇
3	脳科学と心理学の観点から考える子どもの発達	この講義では、特に幼児期・児童期を中心に自己制御能力の発達を取り上げる。自己制御能力は、行動、注意、感情のコントロールをする上で必要な能力であり、社会性にも関わるため、脳科学、心理学それぞれの立場から研究が進んでいる。受講者には、自己制御能力の役割を理解した上で、その発達を促すために、保護者や教育者が子どもとどのように関わるべきかについて考えることを求める。	大内晶子
4	多様化に応じた学級づくりと学級担任の役割	幼稚園・小学校・中学校など、校種に合わせた事例をもとに、現在、学校現場が置かれている状況を概観し、その中でどのような対応が可能か検討する。また、異なる校種での状況を情報交換することにより、これまで行ってきた支援や指導をふり返るとともに、明日からの指導にいかせる内容を扱う。	渡邊洋子

5	世界標準の教員養成と教員研修	2000年のOECDによる学習到達度調査結果は、ゆとり教育による学力低下論争と相まって文科省に衝撃を与えた。総合成績で8/32位と、予想より低かったからである。その後の努力により今では上位にいるが、そのために教師に相当の負担を強いることになった。いったい成績上位国の教員養成・研修の仕組みはどのようなものなのか、彼我の比較を通して、教師の立場から日本の教員養成・研修制度のあり方を考えてほしい。	大武茂樹
---	----------------	---	------

■第二日（選択必修領域）：2017年11月19日（日）

コース名称：学習指導要領改訂・法令改正と教育をめぐる今日的課題

コース概要：学習指導要領の総則と教科教育を中心にその改訂の動向と共に、教育基本法および関連法令の改正と国の教育関連審議会での検討状況等を確認しつつ、子ども・子育て支援制度、学校・家庭・地域の連携・協働、教育の情報化、学校安全と危機管理等、教育をめぐる今日的課題に着目していきます（6時間）。

時間割：

時間	内容（表題）	講義概要	担当者
1	学習指導要領改訂等の動向 総則を中心に	平成29年公示の新学習指導要領等の総則を中心に、全ての学習の基盤となる力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力、組織的・計画的に教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメント、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善等につき、関連資料を参考にしつつ理解を深める。	吉江森男
2	近年の教育改革の動向 ～教育基本法、子ども・子育て支援新制度を中心に～	2006年に「全部改正」された教育基本法の特質やポイント、その他教育関係法の改正、また2015年に開始された子ども・子育て支援新制度のポイント、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解、認定こども園における教育・保育で大切にすべきこと等、近年の教育改革の動向について概観し、これらの課題について考察する。	粕谷亘正
3	学習指導要領改訂等の動向 教科教育を中心に	平成29年公示の新学習指導要領等における新たな方向性を、教科教育を中心に説明する。その内容として、小学校から高等学校に共通する英語教育とプログラミング教育の強化、さらに、高等学校の社会科・理数科・国語科の改編が含まれる。また、ICTの活用やアクティブ・ラーニングの導入といった教育方法の側面にも注目する。	依田 泉
4	法令に見る家庭・学校・地域の連携と教	学校・園、家庭、地域が連携して教育を行うことは、どうして重要なのか。また、具体的にどのような連携が考えられるか。現代の社会が抱えている課題を、教育社会学の知	菊池龍三郎 石崎友規

	育	見や具体的なデータに基づき検討しながら、関連する法令や答申の背景を理解し、学校・園、家庭、地域が連携していくためのポイントを考察する。	
5	法令に見る学校における危機管理上の課題	2009年に一部改正された学校保健安全法および学校給食法、2014年に一部改正された学校保健安全法施行規則に基づいて関連資料に参考にし、学校給食、学校安全計画、危機管理マニュアルの作成などについて考察をすすめる。	小澤 聡

平成29年度 常磐大学教員免許状更新講習【選択領域】講座一覧

日程：2017年11月25日（土）・26日（日）、12月3日（日）

コース名称：子どものためのより良い教育実践を目指して

コース概要：人間科学部教育学科及び短大幼児教育保育学科の教員が、教科教育・幼稚園教育・特別支援教育・子育て支援など、各々の専門分野からの最新情報や、教育実践のためのヒントやアイデアを紹介致します。受講者の皆さんと共に、教育現場での課題や問題点についても、考えてみたいと思います（18時間）。

時間割：

期日	時間	テーマ	授業概要	担当者
11月 25日	1	写真俳句にチャレンジしよう教材研究（国語）	子どもの感性を磨き、言葉の発達を促すためには、指導者の気づきが大切である。そのためにも、この講習を通してお互いに学び合い、自分自身の感性と語感を磨いていただきたい。	渡邊洋子 舩城 梓
	2			
	3 4	野外の活動教材研究（社会）	身近な地域における野外の活動をどのように実施したらよいのか、その活動を組み立てるための手法を社会科教育の観点から捉えることを目的とする。前半は、野外の活動の価値や理論を習得し、大学周辺での野外観察の計画を立て、後半はその計画に従って実際に観察を実施し、野外での指導のための視座や配慮を体得していただく。	大高 皇 依田 泉
	5 6	子育て支援保護者対応	「子ども・子育て支援新制度」の実施や幼保連携型認定こども園の施行等、近年の幼稚園を取り巻く環境は大きく変化し、また、保護者の子ども観、子育て観も多様化してきている。そうした背景を踏まえ、現代の幼稚園・認定こども園における子育て支援について、事例紹介やディスカッションなどを通して考察を深めていただく。	木村由希
11月 26日	7 8	子どもの運動指導教材研究（体育） 場所：K205 及び体育館	前半は講義形式で、幼児期運動指針の内容と実践例を紹介し、どのような取り組みができるかを考えていただく。後半は実技形式で、実際に幼児期に行う運動を体験していただきながら、子どもへの指	紙透雅子 森慎太郎

			導のポイントを説明していく。	
	9 10	障害のある子どもの支援	障害のある子どもとない子どもが、ともに学ぶインクルーシブ教育を実現するための、特別支援教育の視点について概説する。併せて、注意欠陥多動性障害（ADHD）、自閉症スペクトラム障害などの発達障害の概要と、日々の具体的な支援方法についても、事例や最近の脳科学に基づく知見を含めながら説明する。	室谷直子
	11 12	科学遊び教材研究（理科）	幼稚園における領域環境や小学校生活科、理科では、子どもたちが探究心をもって身近な事物や現象に関わることが重視されている。中でも基本となるのは、「比べる」活動であると考えられる。この演習では、いくつかの科学遊びの教材をもとに、「比べる」活動の意義について考察を深めていただきたい。	石崎友規 吉江森男
12月 3日	13 14	子どもの音楽遊び教材研究（音楽） 場所：音楽室	音楽遊びや楽器を使った活動について、その目的と展開方法の見直しを図る。音楽遊び編では、手遊びや身体遊び等の目的を見直し、他領域と関連性を参加者同士でディスカッションしていただく。楽器編では、活動の導入段階における留意点や、楽器を使用した遊びの展開例を示す。	岡部玲子 鈴木範之
	15 16	子どもの造形遊び教材研究（図工） 場所：美術室	多様なメディアの発達に伴い、子どもを取り巻く環境が大きく変化している今日、造形活動をとおして子どもたちが触れる素材や道具を改めて見直すとともに、子どもたちの造形活動をどのように計画し支援すべきかを考えていきたい。	酒巻洋一
	17 18	幼稚園教育の現状と展望	次年度からの全面実施が予定されている新幼稚園教育要領について理解を深めるため、改定の理念や改定のポイント等について解説するとともに、幼稚園教育の現状と、教員に求められる高い資質等について、具体的なエピソードを交えながら講義を行う。	福田洋子 粕谷亘正

